



JRR Award at ICRR 2015 受賞!!



2015年5月25日から29日、京都国際会議場にて開催された、放射線研究を対象とした国際会議『International Congress of Radiation Research 2015』において、A01-1班研究協力者の鶴田様が代表として口頭発表された、「Retrieval of atmospheric radiocesium after the Fukushima accident by analyzing filter-tapes of operational air quality monitoring sites.」 by H. Tsuruta, Y. Oura, M. Ebihara, T. Ohara, and T. Nakajima が、Journal of Radiation Research(JRR) 誌より、ICRRでされた口頭発表、約130題のうちの特に優れた研究の一つとして「JRR Award at ICRR 2015」を受賞されました。

こちらの受賞は、A01-1班、A04-7班、A04-8班の共同研究の結果によるもので、まさにISET-Rの『分野を超えた新たな連携研究』の大きな成果の表れであると思います。



鶴田様より研究についてご説明を頂きました



■ この研究は、全国の各自治体が実施している大気環境常時監視網の、SPM計使用済みテープろ紙中に含まれる放射性核種の分析を行って、これまでわからなかった、東京電力福島第一原子力発電所事故直後の、放射性物質の大気中における時空間分布を解明することです。そして、未だ不確実性の大きい、内部被ばく量の推定、発生源からの放出率の推定、および大気輸送沈着モデルの改良のために、データを公開し、多方面で利用してもらうことにより、これらの不確実性を大巾に少なくすることが研究目的となっております。

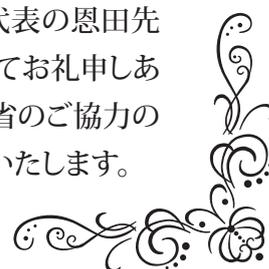


鶴田様より喜びのコメントを頂きました!

このような賞をいただいて、とても光栄です。受賞決定のメールが最初に送られてきたとき、私はこのICRRには今回初めて参加しましたので、勝手にわからず、“エッ、いったい何なの?”とビックリしました。そして、共著者の皆さんに、受賞をお知らせしましたら、下記のようなお返事が届きました。そうなんだ、この論文は、共著者の方々の厳しい叱咤と激励のもとで、東大大気海洋研究所の中島研究室のスタッフの方々が大量のデータを整理して複雑な図を作成してくれたおかげでまとめ上げることができ、投稿後は、reviewerの親切で膨大かつ詳細なコメントに感激して一生懸命対応した結果なのだ、と初めて実感しました。この研究のスタートは、2011年の9月に、大気環境常時監視網で稼働している、SPM計の使用済みテープろ紙の分析を文部科学省に提案したのが最初で、その後、環境省や原子力規制庁の委託事業などで、大規模に取り組むことができました。また、環境省の要請で保存されていたSPMテープろ紙を提供してくださった、東日本の自治体の皆様のご好意とご協力があったからこそ、この論文が評価されたのだ、と改めて、この数年間、係わってくださった非常に多くの方々に、心から感謝申し上げます。さらに、ISSET-Rのアドバイザー・東大 森口祐一教授の、「ICRR2015に発表したらどうですか」という、1年前の一言が、私の背中を押して下さいました。そして、このプロジェクトの代表の恩田先生をはじめ、関係されました多くの方々にお世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げますとともに、これから先も、SPMテープろ紙を用いた研究は、自治体と環境省のご協力のもとで、ますます重要になりますので、引き続きご支援くださいますよう、お願いいたします。



京都国際会議場にて
(鶴田治雄氏)



鶴田様・共著の先生方、受賞おめでとうございます! 今後のさらなるご活躍を期待しております。

受賞に際しまして今回の研究に携わった共著の先生方より、鶴田様へお祝いのコメントが寄せられました

A 01-1班代表: 中島先生

おめでとうございます。人間、信念に従ってがんばることが大事であることがわかりますね。そのうち、お祝いをしましょう。

A 04-7班: 海老原先生

ご連絡、ありがとうございました。朗報ですね。今後の弾みになります。

A 04-8班: 大浦先生

よい成果が得られたのは、鶴田先生の強力なリーダーシップのおかげです。測定データが近々公表されますので、多方面で活用いただけると幸いです。